

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 8 月 8 日	
所属部局・職	瀬戸臨海実験所 海洋生物学研究室 修士 1 回
氏名	日馬 優太

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
新潟県 中頭城郡 妙高高原町 杉ノ沢村笹ヶ峰
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 7 月 18 日 ~ 平成 29 年 7 月 21 日 (4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学 笹ヶ峰ヒュッテ
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果 : 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<b>【実習の概要】</b> 本実習は、山のフィールドにおいて調査を行う基礎的な技術と安全確保の方法を習得する目的で開催された。地図の読み方、コンパスの運用方法を学び、フィールドで実践した。フィールドでは他に植物・陸生昆虫・水生昆虫・陸産貝類などの観察を行なった。また、ロープワークとビバークの行い方についても学んだ。  春に開催される積雪期の笹ヶ峰実習ではより危険が伴う為、夏の無雪期実習への参加が必要条件となっている。私は、本実習の指導教員の 1 人である幸島先生が研究しておられる積雪上や氷河でみられる昆虫に関心を持っており、積雪期実習にぜひ参加したいと考えている。今回は理学研究科の聴講生として無雪期実習に参加させて頂いた。
<b>【実習の詳細】</b> 以下のスケジュールにより実習が実施された。  7/18 ヒュッテ周辺の自然観察、涸沢踏査に向けた地図の読み合わせ 7/19 涸沢踏査、ヒュッテ周辺の自然観察、火打山登山に向けた地図の読み合わせ 7/20 火打山登山 7/21 ロープワーク実習、ビバーク実習
《ヒュッテ周辺の自然観察①》 初日は到着後すぐヒュッテ周辺の散策を行なった。ヒュッテは標高約 1300m の場所に位置しており、学部生の頃住んでいた京都や現在住んでいる白浜とは全く異なる植生がみられた。ヤマウルシ、ツタウルシ、オキナグサ、オニユリ、ノバラ、オダマキ、アザミ、アカツメグサ、フランスギク、ダケカンバ、シラカバ、ブナ、ミズナラなどの植物がみられた。斜面になった場所ではヒメネズミとアカネズミの巣穴がみられた。沢付近ではミズバショウ、ヤマナメクジがみられ、沢の転石下にはニンギョウトビケラがみられた。 途中にあった水無川では枝やがれきの位置で最大水位がどの辺りまでくるかを見る方法を学んだ。ふだん研究をしている海の満潮線を見るのと似ていると感じた。
《涸沢踏査》 2 日目は涸沢踏査を行なった。涸沢に至るまでの林内ではカエデ類、エンレイソウ、ネジバナや従属栄養性のギンリョウソウがみられた。林床は暗く、林内では下草は少なかった。 涸沢ではヤマアカガエルの幼生やジャノメチョウなどがみられた。ジャノメチョウは岩に付着した鳥のフンなどから栄養を摂っているようだ。試しにつばを岩につけてみると、しばらくしてジャノメチョウが数匹集まってきた。 また、涸沢はかなりの急勾配になっている箇所が多くあり、3 点支持法などの技術を使いながら標高

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

1600m 前後の地点まで登った。また、枝を使い斜面を降りる際、生木を使うことも教わった。山の中のランドマークを見ながらコンパス、GPS を使いヒュッテに戻った。林内では単調な景色が続くので、目標の誤認は命取りだと感じた。

### 《ヒュッテ周辺の自然観察②》

初日同様、ヒュッテ周辺を散策しつつ沢へ降りた。沢までの道や草原では多くの昆虫がおり、アキアカネ、アサギマダラ、モンキチョウ、ジャノメチョウ、シジミの仲間がみられた。多数のヤドリギに寄生された樹木もみられた。沢ではニンギョウトビケラをはじめとするトビケラ類の幼虫、カワゲラ類の幼虫、成虫がみられた。幸島先生曰く、この沢は水生昆虫の個体数は少ないとのことであった。

### 《地図の読み合わせ》

初日、2 日目夜は地図の読み合わせを行なった。コンパスの指す北と地図上の北には若干のズレ(偏差)があり、その修正方法と磁北線の書き込み方を習った。また、移動経路、等高線、地図記号の読み合わせも行い、標高が高いためハイマツ帯の記号という見慣れない地図記号もあった。

### 《火打山登山》

ヒュッテを早朝 5:30 に出発し、途中休憩を挟みつつ 11 時過ぎに登頂した。山道に入っただけでしばらくは下草の少ない、比較的樹高の高い林を抜けた。急勾配の続く十二曲り、七曲りを抜け標高 1900m を超えるとブナなどの樹高の高い樹木がみられなくなった。樹木の構成はダケカンバやモミ類中心で、樹高の低い林に変わった。また、時折残雪が見られるようになった。融雪直後とみられるぬかるみが点在していた。標高 2100m 付近に広がる天狗の庭には大規模な雪渓がみられ、雪の溶けた場所ではチングルマ、ツガザクラなどの高山植物の花が咲き乱れていた。天狗の庭から標高 2400m の山頂にかけてはハイマツ帯が広がり、遠くに白馬の山々が見えた。下山では教わった通り安定した場所を選んで足を置いたが、何度か足を挫きそうになった。疲労が溜まっているフィールドワークの後半こそ注意が必要であることを実感した。

### 《ロープワーク・ビバーク実習》

最終日はロープワークと緊急時のビバークの方法について習った。

ロープワーク実習では、からびなを用いた簡易チェストハーネスの作り方ともやい結び、八の字結び、これらの結びを応用したロープ同士の接続法を習った。輪を作るもやい結び、棒に繋ぎ止めるもやい結び、八の字結びは確実に覚えて使えるようにしたい。

ビバーク実習では、簡易テントの張り方、状況別の使用法を習った。単純な構造の簡易テントも工夫次第で多くの使い方ができると実感した。

### 【感想】

ふだん海の生物の研究をしており、これまで参加したフィールド実習の殆どが海で行われたものだったので、新鮮であった。高山植物や溪流に住む昆虫など、特殊な環境下の生物の生態を学び、実際にフィールドで観察することは自身の研究にも役立つと考えている。ぜひ積雪期には冬の雪原上にしか現れないセッケイカワゲラやクモガタガガンボなどの観察をしてみたい。また、自身の研究のフィールドである磯は不安定な足場の多いところなので、今回の登山や沢登りは研究での安全確保に貢献するだろう。



写真 1. 天狗の庭



写真 2. ツガザクラ



写真 3. ヤマナメクジ

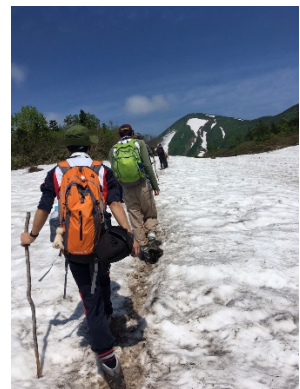


写真 4. 雪渓

## 6. その他 (特記事項など)

**「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書**  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

実習でお世話になった幸島先生、杉山先生、松沢先生、滝澤先生に御礼申し上げます。ありがとうございました。